



だい かいつ がるしや みせん にほん いち けつて いせん だんたい
第20回 津軽三味線日本一 決定戦 団体
ねぶたの部

ねんれんぞく
3年連続7度目の日本一

いしぐろ
石黒 会主
石黒 みゆきさん

今年5月に開催された「第20回津軽三味線日本一決定戦団体ねぶたの部」にて3年連続7度目の日本一に輝いた「石黒会」。参加団体の中でも23人という最多人数で挑み、石黒会会主のオリジナル曲「伝（でん）」をアレンジした「伝2」をステージで披露しました。青森の伝統を汲んだ石黒会会主の曲づくりは審査員からも高く評価されましたが、何よりの勝因は、全員で一つの音を鳴らすという強い「団結力」でした。今回は、茅室町から全国で活躍する石黒会会主の石黒みゆきさんにお話を伺いました。

全員で楽しむことが目標

石黒会は、石黒みゆきさんが三味線の裾野を広げようと平成10年に設立。現在は80人のメンバーで構成されています。

「私が目指したのは、厳しい上下関係のある『流派』ではなく、みんなが主役になれる『会』でした」。そう語る石黒さんが立ち上げた石黒会には、名取制度や過度な上下関係はありません。「みんなで楽しめるための集まり」という理念のもと、団結力を大切に活動しているそうです。

次世代への強い責任感

三連覇のきっかけとなる2024年に優勝した際、石黒さんの頭に浮かんだのは、同年に亡くなった盟友・大竹口美樹さんでした。「とても長い付き合いで、会を共に支えてきたかけがえのない存在」。悲しみの中にあった石黒さんを奮起させたのは「自分がいなくなったとしても、この会が続いていくようにしなければならぬ。教え子たちが自立し、楽しく続けられる環境を残したい」という、次世代への強い責任感でした。



演奏中の石黒さん

『完成がない』から、ずっと楽しい

石黒さんの音楽人生は、日本舞踊や吹奏楽など、多彩な音楽的経験から始まりました。16歳で三味線に出会い、若くして指導者の道へ。30代後半からは自ら歌うことにも挑戦し、数々の全国大会でタイトルを手に入れました。それでも「民謡には『これで完成』がない。だからこそ、一生勉強で、飽きることがないんです！」と微笑みます。

茅室町から、全国へ

現在、子ども向け教室には3歳から小学3年生までの25人が通い、かつて3歳で入会した生徒が今や全国大会で優勝するまでに成長しました。茅室町は、都市部と違い練習環境が整っており、青少年への大会補助制度なども充実していると話します。「道内でもこれほど全国レベルの民謡が盛んな町は珍しい。この恵まれた環境で、これからも民謡・三味線の輪を広げていきたい」と石黒さん。

「教え子たちの笑顔、そして活躍が、今の私の原動力です」。石黒さんの挑戦と笑顔の輪は、これからも茅室町、そして全国に響き続けます。